設立25年事業　AMDA、2013年までに開設

# ネパールに医科大

国際医療ボランティアAMDA（本部・岡山市）は二〇一三年までに、産婦人科医や小児科医を中心に養成する「AMDA国際医科大学」をネパールに開設する。設立二十五周年事業の一環。養成した医師は同国の無医地区に二、三年間派遣し、被災地での救護など海外支援活動も義務付ける。菅波茂代表は「質の高い医師を育てネパール医療の発展や国際貢献に寄与したい」としている。（内田圭助）

## 養成の医師 無医地区へ派遣

構想では、日本の大学医学部と同じ六年制で定員は一学年五十人。スタッフは、AMDAネパール支部所属の医師約三十人が中心となり、岡山、高知、神戸大医学部などにも教員派遣や留学生の受け入れの協力を呼び掛ける。ネパールの乳幼児死亡率が高いことを踏まえ、「産婦人科や新生児科、小児科の専門医を多く育てる方針」（菅波代表）で、病院を併設し、インターネットを活用した遠隔医療・教育システムも導入する。

候補地は、AMDAが同国内に整備したダマック、ブドワール市の二病院の隣接地か、首都・カトマンズ市内。整備費は、二病院を付属病院にすれば大学建設費などで約二億円、カトマンズなら大学と病院施設が必要で約四億円かかる見込み。AMDA会員の拠出金や同国の融資、寄付金を充てる。

菅波代表らAMDAメンバーが一月、同国のラム・バラン・ヤダブ大統領を表敬訪問し、構想を紹介。大統領は「今後も国民を助けてほしい」と話したという。

菅波代表は「国際協力機構（JICA）などにも看護師らの派遣を要請したい」としている。

AMDAは一九八四年設立。海外三十カ国に支部があり、ネパールでは九〇年から巡回医療などを続け、これまでに三病院を設置している。

ネパール・ブドワール市にあるAMDA子ども病院。AMDA国際医科大が隣接地にできれば付属病院になる予定